

数値目標 1 : 公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率

1. 計画策定当初の考え方

目標値の設定

将来的に人口減少が見込まれる中においても、住民等が将来に亘り安心して移動できる公共交通が重要であることから、公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率の維持を設定。

算出方法

国勢調査結果（5年ごとに実施）を基に、鉄軌道駅を中心とした概ね半径500m内の居住人口+バス停及びコミュニティ交通の停留所を中心とした概ね半径300m内の居住人口が総人口に占める割合。

$$\text{公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率} = \frac{\text{アクセス可能地域内人口}}{\text{熊本市域人口（全メッシュ人口）}}$$

達成状況

基準値 〈H27年度〉 (H26年度実績)	実績値 〈R2年度〉	目標値 〈R2年度〉	目標値 〈R7年度〉
83.9%	85.6%	83.9%	83.9%

2. 中間見直し時の考え方

目標値の設定

中間年度時点で目標を達成しているので、達成した目標値の維持を目指す。

数値目標の再設定

基準値 〈H27年度〉 (H26年度実績)	実績値 〈R2年度〉	目標値 〈R7年度〉
83.9%	85.6%	85.6%

数値目標 2 : 公共交通機関の年間利用者数

1. 計画策定当初の考え方

目標値の設定

将来的に人口減少や公共交通機関の利用者数は減少が見込まれる中、その減少を行政・公共交通事業者等の連携のもと出来る限り低減していくことが重要であることから、公共交通機関の年間利用者数を設定。

算出方法

年度ごとの各公共交通機関の輸送実績（利用者数）の合計値。

達成状況

基準値 〈H27年度〉 (H26年度実績)	実績値 〈R2年度〉 (R1年度実績)	目標値 〈R2年度〉 (R1年度実績)	目標値 〈R7年度〉 (R6年度実績)
55,436千人	53,216千人	55,269千人	54,708千人

2. 中間見直し時の考え方

目標値の設定

新型コロナウイルスの影響により公共交通利用者数は大きく減少している。計画後期の期間でコロナ発生前の利用者数（R1年度実績）への回復を目指す。

数値目標の再設定

▼ 参考にコロナの影響による利用者数の減少値を示す。年度の途中であり年間の利用者数がカウントできないので、現時点ではR1年度実績値の3割減程度を想定。

基準値 〈H27年度〉 (H26年度実績)	実績値 〈R2年度〉 (R1年度実績)	参考値 〈コロナによる影響〉 (R2年度見込み)	目標値 〈R7年度〉 (R6年度実績)
55,436千人	53,216千人	37,267千人	53,216千人

基準値 〈H27年度〉 (H26年度実績)	実績値 〈R2年度〉 (R1年度実績)	目標値 〈R7年度〉 (R6年度実績)
55,436千人	53,216千人	53,216千人

▼ 計画後期からは、公共交通の利用者数として路線バスと鉄軌道に加えて、これらのネットワークと接続するコミュニティ交通についても数値目標として設定。

基準値 〈R2年度〉 (R1年度実績)	目標値 〈R7年度〉 (R6年度実績)
22千人	34千人

数値目標の設定について

数値目標 3 : 目的地に行くときに公共交通機関を利用する市民の割合

1. 計画策定当初の考え方

目標値の設定

公共交通の維持・確保に向けて、行政や公共交通事業者の連携はもとより、住民等の様々な生活シーンでの移動を公共交通機関の利用へ転換・促進していくことが重要であることから、公共交通機関を利用する市民の割合の増加を設定。

算出方法

毎年度実施する市民アンケート調査結果。増加割合値の設定については、少なくとも市民の2人に1人が目的地に行くときに公共交通機関を利用することを目標に掲げることから、2025年度の目標値を50.0%と設定。

達成状況

基準値 (H27年度)	参考値 (R1年度)	目標値 (R2年度)	目標値 (R7年度)
47.5%	39.7%	48.8%	50.0%

2. 中間見直し時の考え方

目標値の設定

少なくとも市民の2人に1人が目的地に行くときに公共交通機関を利用することの目標は当初計画のとおり継続的に掲げ、R7年度の目標値を50.0%に設定。

数値目標の再設定

基準値 (H27年度)	実績値 (R2年度)	目標値 (R7年度)
47.5%	39.7%	50.0%

※ 実績値 (R2年度) は、現時点ではR1年度の実績値を用いて設定している。R2年度の実績値が確定したら数値を変更する。(R3.2速報値確定予定)

数値目標 4 : 公的資金が投入されている公共交通の収支率

1. 指標設定の考え方

目標値の設定

様々な施策の展開により、公共交通の事業の収益の増加及び支出を抑制を図り、公共交通のサービス水準の向上を目指すことが重要であることから、公的資金が投入されている公共交通の収支率を設定。

算出方法

公的資金が投入されている公共交通の収支率

$$= \text{収入額} / \text{支出額}$$

数値目標 5 : 利用者 1 人当たりの公共交通への公的資金投入額

1. 指標設定の考え方

目標値の設定

公共交通全体でのサービス水準の維持・確保を図っていくためには、今後も一定程度の公的資金の投入は必要不可欠である。持続可能性の観点から、利用者 1 人当たりの公共交通への公的資金投入額を目標値に設定。

算出方法

利用者 1 人当たりの公共交通への公的資金投入額

$$= \text{公的資金投入額} / \text{年間利用者数}$$